

平成 16 年 11 月 18 日

5号機

平成16年11月17日午後5時10分頃、発電機負荷遮断検査により原子炉が停止した後、タービン建屋地下1階高圧ドレンポンプ配管室エリア(放射線管理区域内)において、高圧ドレンポンプ(1)出口配管のオリフィス取付フランジ部(3)のすき間から、水が滴下していることを当社社員が発見しました。(水の滴下量:約50cc/分)

当該箇所の上流、下流の弁を閉じたことにより、午後7時5分、滴下は止まりました。

外部への放射能の影響はありません。

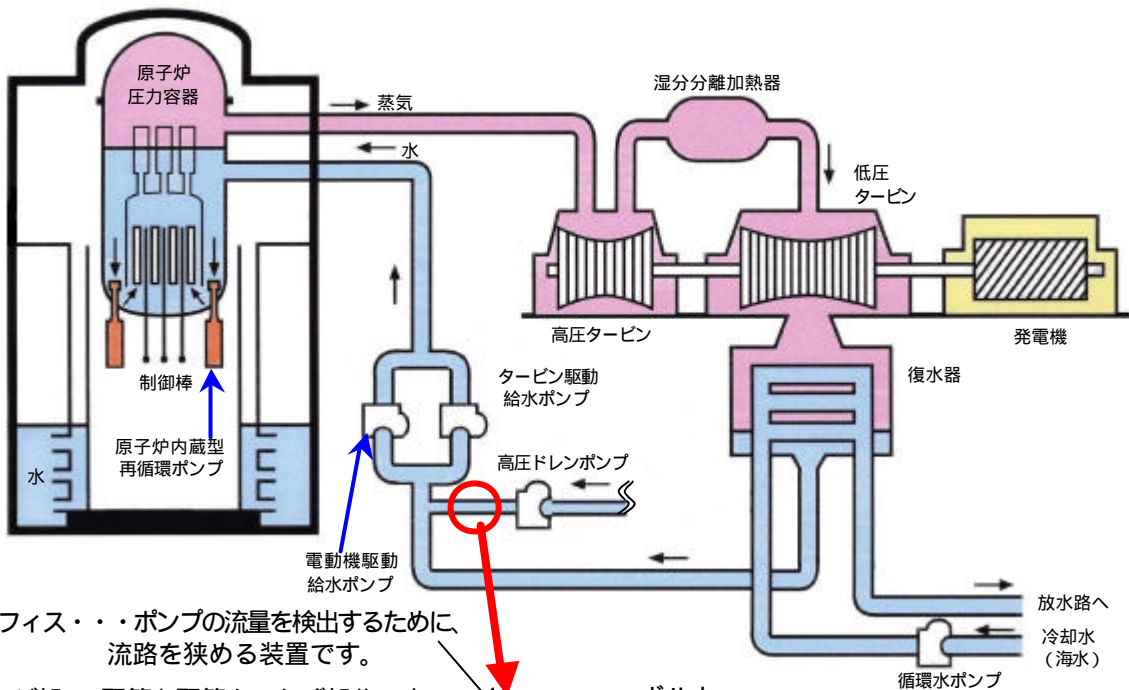
11月17日午後8時00分より当該フランジ部の点検を実施しています。

(11月18日お知らせ済み)

点検を行ったところ、出力変動等に伴う、温度、圧力等の変化によりフランジ部が若干緩み漏えいに至ったものと推定しました。このため適切に締め付け、さらに漏えい確認を行い、午後2時50分に点検を完了しました。

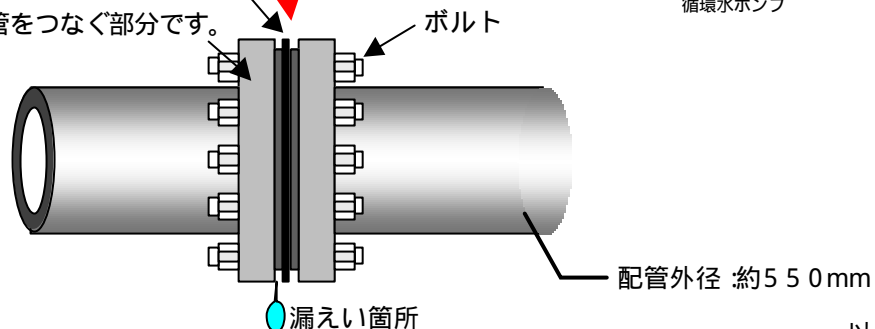
- 1 高圧ドレンポンプとは、湿水分離加熱器(2)等で発生するドレン(凝縮水)を給水ポンプの入口に戻すためのポンプのことです。
- 2 湿水分離加熱器は、高圧タービンから排気された蒸気中に含まれる湿分を分離除去し、蒸気を加熱する装置です。

原子炉格納容器



- 3 オリフィス・・・ポンプの流量を検出するために、流路を狭める装置です。

フランジ部・・・配管と配管をつなぐ部分です。



以上